

テーマ 「すてきな木」 の えほん

しよめい		しゅっぱんしゃ	せいきゅうきごう	ないよう
りんごのき	エドアルド・ペチシカ／ぶん ヘレナ・ズマトリーコバー／え うちだ りさこ／やく	福音館書店	SIホン	あるふゆのひ、マルチンはいかにぼうがたっているのをみつけました。おかあさんが「あれはぼうじゃなくて、りんごのきよ」とおしえてくれました。マルチンはりんごのきのせわをするようになりしました。マルチンのめをとおして、りんごのきのしきがえがかれています。
もりのふゆじたく	たるいし まこ／さく	福音館書店	SIホン	あきになって、もりはきのみでいっぱいです。どうぶつたちはいっしょうけんめいきのみをあつめています。たぬきさんはほかのどうぶつのおてつだいばかりしていて、いえにかえるまでにじぶんのきのみをあつめることができませんでした。ところがいえにかえると…。
どんぐりかいぎ	こうや すすむ／文 片山 健／絵	福音館書店	Iホン／カ	むかし、きたのくにに、どんぐりのもりがありました。どうぶつはおなかいっぱいどんぐりをたべ、のこったどんぐりは、こどものきになりました。ところがあるとし、どうぶつがふえすぎて、どんぐりがたりなくなりました。こまったどんぐりのきは、かいぎをひらきます。いたとき、ともだちのこえがきこえてきました。
おおきなかしの木	エリザベス・ローズ／文 ジェラルド・ローズ／絵 ふしみ みさを／訳	岩崎書店	Iホン／口	リスの口からこぼれおちた1粒のドングリは芽をだし、なんびやくねんのつきひがながれ、かしはみごとなうつくしい木にせいちょうしました。かしの木のまわりには、いつもどうぶつや、ひとがあつまります。ときのうつりかわりを1000年の間みていた木のおはなしです。
ごちそうの木 タンザニアのむかしばなし	ジョン・キラカ／作 さくま ゆみこ／訳	西村書店	Iホン／キ	ひでりがつついて、たべるものがないどうぶつたちはおなかがぺこぺこ。ゾウが、ふしぎな木のみがたべられるじゅもんを、カメにおしえてもらいます。「ントウングル・メンゲニエ」ゾウはだいじなじゅもんをみんなにつたえるとちゅう、ころんでしまいわすれてしまいます。。
木はいいなあ	ユードリイ／さく シーモント／え さいおんじ さちこ／やく	偕成社	Iホン／シ	たくさんの木。いっぽんだけの木。ひざしをあびて、はをゆらし、みをつける。あついなつは木のしたでひとやすみ。あきになればおちばであそんだり、たきびもできる。木のみきにぶらんこをつけたり、木のしたでおべんとうをたべるのもいいよね。木はいいなあ。